



# せせらぎ

令和4年7月1日  
清瀬市立清瀬第四小学校  
7月号  
家庭数配布

あいさつ、読書、そして「チャレンジ月間」へ

校長 長沼正城

今週、突然の梅雨明けとなり、連日の猛暑続きで心も体もなかなかついていけない毎日ですが、体調など崩さないようにくれぐれもご自愛いただければと思います。

本校でこの4月・5月・6月と、一貫して取り組んできたのは、心と心をつなぐ「あいさつ」です。先日は、代表委員による「朝のあいさつ運動」がありました。けっこう素通りする人がいる中で、リーダーの6年生は言いました。「あいさつを自分からしてくれる人や、すぐに返してくれる人がいるので、本当にうれしい!」と。とても前向きな発言に感動しました。その言葉から私は気づかされました。「あいさつ」を通して“心が磨かれている”と。「あいさつ」する習慣がついていない児童は、とてもおっくうで、面倒くさいことかもしれません。先生が言うからやっている…という児童もいるかもしれません。しかし「あいさつしたり、されたりすること」は“気分のよいこと”、「人とつながること」は“心地のよいこと”が大事です。そういう感性が人間性を豊かにし、その分「幸福度」も高くなることでしょう。この3か月間で、そういう児童が2倍・3倍と増えてきたことを実感します。私も児童の明るいあいさつに毎日、元気をもらっています。今後、ご家庭や地域でそんな児童の姿が自然に見られるようになったら、本物です。「あいさつ」の良さがわかっている証拠です。保護者・地域の皆様と共に見守りつつ励ましていきたいと思っています。

さて、6月は「読書月間」でした。児童の取り組む様子も変わってきました。読書量が増えたのです。2000ページを突破した児童は、全校で30人近く。平均でも一人当たり1000ページ程になりました。

私は「読書」の一番の効用は「集中力」がつくこと、だと感じます。読書をしている姿は、ふだん元気が良過ぎる子でも、“賢く”見えます。読書を続けていくと、この姿が“板につき”、本当に賢くなっていくのです。つまり「考える力」がついてきます。これこそ人間らしさの源泉です。

読みたい本を心ゆくまで読める児童にとって、“平和な日本”であればこそ実感できる幸福感だと思います。今、世界を見渡せば、思うように本を読めない子どもがたくさんいます。日本・清瀬に生まれ、そこで生活できる有り難さ…。児童の中には本が好きになれない子もいるようです。それはきっとすてきな本に出あっていないのでしょう。その子に合った本は必ずあるはずです。私たちもあの手この手で、心に残るすてきな本に出あえるようにがんばっていきます。

本を読むことの効用の第二には、「想像力」が豊かになることでしょう。同時に第三には「語い」も増えます。本好きの児童は、そのことを頭と体が覚えていくように思います。そうして友だちとの関わり方も豊かになります。すると次のようなイメージが浮かんできます。

想像力が豊かになる→ 考える力がつく→ 見えないことを大事にする→ 相手の気持ちに寄り添う→ 新たな「気付き」が生まれる→ 優しい言葉も生まれる→ 思いやりの心が豊かになる→ 手助けをすすんでするようになる→ やがて「励まし名人」になっていく

「読書は心のごちそう」といいます。できれば「名作」にも挑戦してほしいし、「栄養価の高い」「清瀬の100冊」にも挑戦してほしいところです。涼しいときに適度に運動し、暑い日中は読書にいそしむ“四小っ子”の姿、素敵だと思います。

この7月は、苦手なことにも挑戦する「チャレンジ月間」です。粘り強くやり切って終業式を迎えさせたいと思います。

